

# 太平洋イカ類漁場開発調査

## (開運丸アカイカ漁場調査、東奥丸イカ類漁場調査)

十三 邦昭・大川 光則・中田 凱久  
仲村 俊毅・菊谷 尚久

### 発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅻ（昭和62年4月）及び昭和61年度外洋性イカ（スルメイカ、アカイカ）に関する生物測定、標識放流、海洋観測基礎資料集

### 抄 録

昭和61年6～10月の期間において、試験船開運丸（調査海域、北緯 $40^{\circ}-29' \sim 44^{\circ}-05'$ 、東経 $141^{\circ}-30' \sim 156^{\circ}-29'$ ）及び、東奥丸（北緯 $38^{\circ}-42' \sim 41^{\circ}-26'$ 、東経 $141^{\circ}-30' \sim 150^{\circ}-11'$ ）によって、スルメイカ、アカイカ等の漁場環境、イカ類分布の状況及び群の生物的特性についての調査を行った。

#### 1. スルメイカ及びアカイカ漁場の環境について

6～8月までは、平年より親潮第1分枝の強勢と黒潮系北上暖水の南偏により、東北太平洋側海域の海面水温は全般に $1 \sim 3^{\circ}\text{C}$ 低目であった。9月以降10月までは平年並かやや高目となったが、これらの海況の変動がアカイカ、スルメイカの北上を遅らせた原因とも考えられる。

#### 2. スルメイカ、アカイカの分布

##### (1) スルメイカ

両試験船のスルメイカ総漁獲尾数は、186尾で例年を大中に下回った。しかし、昨年より若干上回った。漁場は極く沿岸寄りに形成され、沖合での分布はみとめられなかった。

##### (2) アカイカ

延60回の漁獲試験でアカイカ33,582尾を釣獲したが、例年より操業回数の減少で不振であった昨年をも下回った。アカイカの分布の中心は、例年より沖合で、昨年漁場形成のあった本県太平洋距岸20～40浬には、全く形成されなかった。

#### 3. アカイカ来遊群の性状及び漁獲量

61年の青森県の釣によるアカイカ水揚量は3,305トンで、本格的に操業を始めた昭和50年以降では、最低の水揚であった。魚体は7～9月までは、昭和52年以降最も小さく、10月に入って、漸く平年並となった。